





国際ロータリー第 2830 地区  
ガバナー 小山内 康 晴

## 「10月は地区大会、全員集合！」

「客家」という言葉をご存知でしょうか。ご商売なさっている方なら一度ならず耳にしたことがあるかと思いますが、「ハッカ」と読み、中国独自の伝統的様式をもち、「土楼（ドロウ）」という集合体に住んでいる人たちのことを言い、数多くの有名な実業家や政治家を生んでいます。

客家には数々の名言が残されており、それらは、商売の教訓として引き合いに出されることが多いのですが、例えば、「嫉妬は成功の敵、愛嬌は成功の素」という言葉があります。「商いに成功するものには必ず愛嬌がある。嫉妬は成功の敵。運もお金も寂しがり屋。一人ぼっちが嫌いだから、みんなのいるところに集まる。」なるほど、って感じですよ。

その他、「運は親切をした相手の背中から来る」というものもあります。「出会いは決して偶然ではなく、頑張っている人間を必ず誰かが見ている。他人に親切にしても、その人から何か返ってくることはまずないが、その人の友人やそれを見ている人が必ずいて、その人間から運を与えられる。」

さらに、「準備していなかったチャンスはリスク」意味は、「幸運は突然やってくる。そのための準備を怠るな。準備が整っていないときにやってくる「チャンス」は、「リスク」に変わる。」あれ？どっかの団体が言われてるみたいな気がするんですけど。

続けます。「50人の仲間が成功の核心となる」つまり、「運は人間が運んでくるのだから、他人とどう接するかによって、その人の運が決まる。」50人が味方になるか敵になるか。やべ！例会に出ようっと。

土楼の中で、客家の子どもたちは年長者からこういった教えを日々受け継がれているそうです。

これらの教えは、ロータリーにも通じることだと言えませんか？ロータリーは、いわば「土楼」で、我々ロータリアンは、「客家」でないでしょうか。

10月、弘前の地の「土楼」で「客家」の集まり「地区大会」が開催されます。客家の教えを守り実行し大成功を収めた先人にならば、もし、あなたが、今以上の幸せを望むならば是非地区大会に参加して下さい。

**運もジェンコもみんなのいるドゴさ、あづまるんだど。**

# 地区活動報告

## 『被災地復興支援会議』

2011年8月3日(水) ホテルアップルパレス

地区R財団委員長 富岡 義勝(八戸RC)

8月3日から5日にかけて第2760地区より、R財団委員会を中心とする訪問団がわが地区を訪れ、3日・4日それぞれ八戸・青森で東日本大震災の被災地復興支援についての会議を行ないました。わが地区もR財団委員会、被災地復興支援委員会(村井PG委員長)を中心に対応しました。

八戸では、地元八戸のボランティア・グループ「ハチドリの会」の大畑代表から、震災当時の様子や、鮫地区の避難所での活動のお話を頂戴し、見事に機能したその活動に多くを学びました。また青森では、震災発生から数週間で山田町に出かけ被災地支援を行ない、しばらくしてからローター・アクターたちと現地で炊き出しを行なった青森RCの木村前会長の体験談を皆目頭を熱くして聞き入りました。第2760地区の方がたも大いに感動し、また私たちも地区内にいち早く素晴らしい活動をした仲間がいることを大いに誇りに思った次第です。

被災地としてわが地区では、八戸地域での水道栓工事に対し支援活動を計画中ではありましたが、第2760地区が援助できる「グローバル補助金」事業には、向いていないことなどを報告しました。第2760地区は、青森の後、岩手・宮城を訪問することから、今後も連絡を緊密に取って被災地のために出来ることをやっていくことを確認しました。

最後になりますが、青森県内各地で祭りの最中であつたにもかかわらず、八戸では八戸東RC(菅原章夫会長)、青森では小林パスト・ガバナーご夫妻の活発かつ献身的なご協力に心より感謝申し上げます。

2011年9月16日(金) 八戸グランドホテル

源新 育子(八戸北RC)

2011年9月16日(金)午後2時より3時30分まで、八戸グランドホテルにて、村井達委員長はじめ委員17名中12名の出席を得て、第2回被災地復興支援委員会が開催されました。

財務・会計について平山秀司委員より、2011年4月14日から8月13日までの入金額13,083,583円に対し、災害児童奨学会(@20,000円×367名)7,340,000円、アンドラス募金200,000円、被災保育園への義援金(4ヶ所)400,000円、海洋少年団へ備品寄贈960,015円、雑費他手数料として3,580円、現在残高は4,179,988円で、通帳と合致しておりますと報告がありました。

村井達委員長からは、すでに実施されておりますFCバルセロナ・チャリティーサッカースクール支援について、大変盛況であったことと、予算の1,500,000円内で収まりそうなので、請求書が届き次第支払う予定との報告がありました。

また、北向幸吉実行委員長から、当初グローバル補助金で考えていた水道・衛生設備復旧事業については、早急に対応しなければならないことから、2760地区(愛知)、3330地区(タイ)、当地区弘前RCからの資金を充てることとし、8月までの募集に対し91件分(5%値引き)で8,990,000円を拠出する予定との報告がありました。

その他、2760地区(愛知)DDFの100,000,000円の資金使途や、パイロット地区の3500地区(台湾)10,000ドル、3500地区(台湾・新竹RC)の20,000ドルについては認証ポイントが条件のところもあり、当地区のみならずパイロット地区として2830地区が受け皿となり、他の被災地も含めた支援が可能かどうか検討する必要がある、時間がかかることとなりそうです。ロータリー財団「日本復興基金」については、認証ポイントはもらえるが、プロジェクトに参加したとする記録はロータリー財団には残らないため、復興支援の仕分け、使い道が難しい状況にあります。

また、ガバナー会で持ち上がった「育英資金」としての計画は無くなり、「日本復興委員会」に寄付するか、あとはそれぞれの地区にお返しし、地区に一任することに決定した旨、小山内康晴ガバナーよりお話がありました。

復興支援については時間の経過と共に支援のあり方も、求められることも刻々と変わることから、時間がかかるかもしれないが、しっかり審議し、有効な資金使途のあり方を探っていくべきであろうとし、各種報告を終了致しました。